

# ルーマニア月報

2026年4月号

本月報はルーマニアの報道等をもとに、  
日本大使館がとりまとめたものです。

令和8年5月8日  
在ルーマニア日本国大使館作成

## 主要ニュース

### 【内政】

- 4月3日、政府は緊急政令を採択し、軽油物品税の約11%引き下げと石油企業への連帯拠出金導入を決定。
- 4月8日、ダン大統領は主要検察庁の幹部7名を任命。最高司法評議会が否定的意見を出した候補が含まれたことで司法改革後退等との批判が出た。
- 4月8日、国家視聴覚評議会による Realitatea Plus の免許取消を控訴裁が一時停止。表現の自由や検閲を巡る論争に発展。
- 4月20日の PSD 党内投票を経て、4月23日に PSD 所属の閣僚が総辞職。ポロジャン首相は続投を宣言。
- 4月28日に PSD と野党 AUR らにより提出された内閣不信任案が、5月5日に賛成281票で可決。ポロジャン内閣は退陣することになるが、新内閣発足までは暫定的に職務を継続。

### 【経済】

- 4月8日、世界銀行は2026年のルーマニア経済成長率予測を1.3%から0.5%に下方修正。
- 4月9日、国家統計局は2025年の実質GDP成長率が前年比0.7%であることを確認する改訂値を発表。

### 【外政】

- 4月28日、ダン大統領はクロアチアで開催された三海域イニシアティブ首脳会合に参加。

### 【防衛・安全保障】

- 4月28日、ルーマニア議会は、「欧州の安全保障のための行動（SAFE）」を通じた資金調達のために国防省が提案した15件のプロジェクトの条件を承認。

### 【我が国との関係】

- 4月15日、片江大使はパウリウク上院国防・治安・国家安全保障委員長と会談し、安全保障課題への対応について議論。
- 4月18日、在ルーマニア日本国大使館は、ミハイーセ公園（ヘラストラウ公園）内の日本庭園で、ブカレスト市と共催で「花見」を開催。

## 内政

### ● 燃料価格高騰への対応

- 4月3日、政府は中東情勢を受けた燃料価格高騰への対策として緊急政令を採択。標準軽油の物品税を1リットルあたり約30バニ（約11%相当）引き下げるとともに、石油セクター企業からの「連帯拠出金」を創設する内容。

### ● 検察トップ人事

- 4月8日、ダン大統領はマリネスク法務相（PSD）が提案した検察庁・国家汚職対策局（DNA）・組織犯罪・テロ捜査局（DIICOT）幹部8名中7名を任命。（グリゴレ・イアコビチ（Gill Julien Grigore Iacobici）組織犯罪・テロ捜査局次席検事候補は任命せず。）

キリアック（Cristina Chiriac）検察総局首席検事

ヴォイネアグ（Marius Voineag）検察総局次席検事

チエルブ（Viorel Cerbu）国家汚職対策局（DNA）首席検事

ミンカ（Marinela Minca）国家汚職対策局（DNA）次席検事

シュテファン（Marius Ionel Stefan）国家汚職対策局（DNA）次席検事

ミロン（Codrin Miron）組織犯罪・テロ捜査局（DIICOT）首席検事

フロレンツァ（Alex Florenta）組織犯罪・テロ捜査局（DIICOT）次席検事

- 一部候補に最高司法評議会（CSM）からの否定的意見があったため、市民社会やUSRなどから司法改革後退、PSDへの譲歩等との批判が出た。

### ● 当地メディア「Realitatea Plus」の免許取消と表現の自由論争

- 4月8日、国家視聴覚評議会はRealitatea PlusテレビおよびGold FMの免許取消を決定したが、同日、ブカレスト控訴裁が免許取消決定を一時停止。
- AURは「検閲」と批判し、同テレビ局がジョルジエスク（Calin Georgescu）元大統領候補の支持層の主要発信媒体であったこともあり、政治問題化した。

### ● PSDの党内投票とPSD閣僚の辞任

- 4月20日、PSDは党内投票を実施し、約5,000名の投票者のうち97.7%がポロジャン首相への政治支持撤回に賛成。本投票結果を受けて、PSDは首相の辞任を要求。応じなければ閣僚辞任・不信任案提出も視野に入ると発言。ポロジャン首相は辞任を拒否。
- 4月23日、PSDに所属する副首相および6閣僚が辞任し、連立政権から離脱。ポロジャン首相（PNL）は残るPNL・USR・UDMR閣僚に暫定的に空席となった大臣ポストを割り振った。

### ● PSD・AUR・PACEによる共同不信任案提出

- 4月28日、PSDがAUR・PACEとともに、ポロジャン内閣に対する不信任案を254名の署名で提出。29日、読み上げ。
- 5月5日、ポロジャン内閣に対する不信任決議案が可決された。採決結果は賛成281、反対4、無効3（過半数：233票）。ポロジャン内閣は不信任決議案可決により退陣することになるが、新内閣発足までは暫定的に職務を継続。

● **フェミサイド（女性殺害）処罰強化法の公布**

- 4月23日、ダン大統領は「フェミサイド（女性殺害）の防止および撲滅に関する法」を公布した。この新法は、ルーマニア法史上初めてフェミサイドを定義し、厳罰を科すもの。

● **世論調査の結果**

- INSCOP（調査実施期間 4月1日～4月7日、対象者：不明、統計上の誤差：不明）  
 政党支持率 AUR 37%、PSD 20.1%、PNL 15.5%、USR 12.7%、UDMR 4.3%、POT 3.6%、SOS 2.8%、SENS 2.4%

【政党略称】PSD：社会民主党、PNL：国民自由党、AUR：ルーマニア人統一同盟、UDMR：ハンガリー人民主同盟、USR：ルーマニア救国同盟、POT：青年党、PUSL：社会自由ヒューマニスト党、AFD：右派の力連合、SENS：健康・教育・自然・持続可能性党、PACE：議会会派「平和—ルーマニア第一」（主に SOS・POT 離脱議員らによる極右会派）

**経済**

(1) **主要経済統計とりまとめ（国家統計局、財務省、ルーマニア中央銀行 発表とりまとめ）**

● **国家統計局（INS）**

	2025/8	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2
貿易収支（億€）	-219.459	-244.92	-274.93	-297.702	-327.431	-23.255	-47.616
消費者物価指数(%)	9.85	9.88	9.76	9.76	9.69	9.62	9.31
失業率（%）	6.1	6.0	6.1	6.3	6.1	6.0	6.0
平均グロス給与（€）	1,800	1,816	1,830	1,874	1,973	1,844	1,854
平均ネット給与（€）	1,077	1,089	1,098	1,123	1,183	1,103	1,111

● **財務省（MF）**

	2025/8	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2
財政収支（億 lei）	863.586	1024.738	1088.689	1217.742	1460.332	8.451	142.326
GDP 比（%）	-4.54	-5.39	-5.72	-6.40	-7.65	-0.04	-0.7

● **ルーマニア中央銀行（BNR）**

	2025/8	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2
政策金利（%）	6.50	6.50	6.50	6.50	6.50	6.50	6.50
外貨準備高（億€）	651.88	650.15	653.47	654.08	648.00	658.12	650.23
経常収支（億€）	-187.89	-222.75	-246.36	-271.40	-301.27	-9.77	-31.91
前年同期（億€）	-180.01	-205.15	-236.44	-260.60	-288.53	-10.32	-36.38
FDI（億€）	46.85	56.47	72.37	75.87	81.53	4.29	11.28
前年同期（億€）	42.24	49.64	56.25	53.58	56.02	4.17	8.54
前年同期比（%）	+10.91	+13.75	+12.73	+42.00	+45.54	+2.88	+38.08
中長期対外債務(億€)	1728.52	1740.27	1776.17	1785.99	1794.31	1817.19	1825.19
前年末比（%）	+10.5	+11.3	+13.6	+14.2	+14.8	+1.3	+1.2
短期対外債務(億€)	494.65	472.56	479.71	489.13	479.16	476.14	474.44
前年末比（%）	+4.9	+0.2	+1.7	+3.7	+1.6	-0.6	-1.5

● **消費者物価指数（国家統計局（INS）・ユーロスタット）**

	2025/8	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2
消費者物価指数(%)	9.85	9.88	9.76	9.76	9.69	9.62	9.31
食料品価格(%)	8.92	7.86	7.57	7.64	7.75	7.86	7.89
非食量品価格(%)	10.48	11.09	10.96	10.73	10.48	9.99	9.41
サービス価格(%)	9.85	10.36	10.52	10.99	11.00	11.59	11.37
ユーロ圏平均	2.0	2.2	2.1	2.1	1.9	1.7	1.9
EU27 カ国平均	2.4	2.6	2.5	2.4	2.3	2.0	2.1

● **業種別（前年同期比）（国家統計局（INS）・ユーロスタット）**

	2025/8	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2
<b>鉱工業</b>							
工業生産高(%)	-1.1	0.2	0.2	-0.5	1.6	-3.8	-1.5
工業売上高(名目)(%)	-3.2	7.1	1.6	-0.4	-6.1	-4.3	-2.5
工業製品物価指数(%)	3.2	6.1	8.0	4.8	6.0	7.8	3.0
新規工業受注高(名目)(%)	-4.9	9.3	1.9	-4.1	9.5	-5.3	-3.2
<b>小売業</b>							
小売業売上高(除:自動車・バイク)(%)	-2.1	-1.9	-4.0	-4.0	-2.0	-6.5	-6.2
自動車・バイク売上高(%)	4.5	3.3	-0.8	5.1	6.7	-0.3	2.7
小売業売上高 ユーロ圏平均(%)	1.0	1.0	1.5	2.3	1.3	2.0	1.7
小売業売上高 EU 平均(%)	1.1	1.3	1.6	2.3	1.7	2.3	1.7
<b>建設業</b>							
工事(%)	-2.3	4.7	13.3	-0.4	3.8	-0.9	13.8

(2) **主要経済関連ニュース**

● **2月の失業率は6%、若年層失業率は28.2%に達する**

➢ 4月1日、国家統計局（INS）は2026年2月の季節調整済み失業率が6%と、1月と同水準であった旨発表した。失業者数は約49.47万人で前月よりやや増加したが、前年同月比では減少した。15歳から24歳の若年層の失業率は28.2%と高水準を維持しており、労働市場における構造的課題が続いている。

● **世界銀行、2026年のルーマニア成長率予測を0.5%に下方修正**

➢ 4月8日、世界銀行は2026年のルーマニア経済成長率予測を1.3%から0.5%に下方修正した。財政引き締めや公共部門の賃金・年金凍結が個人消費を抑制し、2025年の経済成長はコロナ禍以来最低の0.7%にとどまった。2027年までには財政赤字がGDP比6%を下回ると予測している。

● **INS、2025年のGDPは実質0.7%増、第4四半期は前四半期比1.8%減**

➢ 4月9日、INSは2025年の実質GDP成長率が前年比0.7%であることを確認する改訂値を発表した。

● **IMF、2026年のルーマニア成長率予測を0.7%に下方修正**

➢ 4月14日、国際通貨基金（IMF）は2026年のルーマニア経済成長率を1.4%から0.7%に引き下げた。インフレ率は今年7.8%に上昇すると見込み、2027年には3.9%に低下すると予測。経常収支赤字はGDP比6.8%に縮小する見通し。

● **3月のインフレ率は9.87%に上昇**

➢ 4月14日、INSは2026年3月のインフレ率が9.87%に上昇したと発表した。サービスが11.05%、非食品が10.89%、食品が7.67%それぞれ上昇し、2月の9.31%から加速した。

### (3) 政治危機の影響

- **財務省、格付機関が政治的不安定リスクへの懸念を表明**

- 4月20日、ルーマニア財務省はワシントン訪問後に発表した声明で、ムーディーズ、S&P、フィッチの各格付機関がルーマニアの政治危機が生む不安定リスクへの懸念を示した旨明かした。一方で、2026年第1四半期の予算執行は前年同期比で大幅な赤字縮小を示しており、財政健全化の進捗が評価されたとした。

- **政治危機でルーマニア株式市場が2%超下落、10年国債利回りが50ベースポイント上昇**

- 4月21日、コディルラス米国証券アナリスト協会ルーマニア会長は、政治危機の影響が既にルーマニアの金融市場に現れている旨警告した。開場直後に株式市場が2%超下落し、10年国債利回りが約50ベースポイント上昇した。同氏は影響はまだ始まりに過ぎないと述べ、長期的には国債利回りの動向に注意が必要と指摘した。ルーマニア経済の最大の課題は財政赤字の資金調達であり、EU資金へのアクセス確保が投資適格格付けの維持に不可欠だと強調した。

- **ポロジャン首相、EU資金吸収に関わる法整備を最優先課題と強調**

- 4月21日、ポロジャン首相は記者会見で、現在の議会情勢を「複雑」と述べながらも、政府機能の維持とEU資金吸収のための法整備が最優先であると強調した。少数与党内閣に対する不信任動議の可能性を踏まえつつ、改革継続の重要性を訴えた。

- **政治危機でルーマニア・レイが対ユーロで史上最安値を記録**

- 4月30日、ルーマニア・レイ[は対ユーロで史上最安値の5.1418レイを記録した。旧連立与党の社会民主党と極右野党が4月28日に提出した不信任動議を受け、政府の安定性への懸念が高まり、国債利回りの上昇と株式市場の下落も招いた。格付機関や投資家はEU資金へのアクセス喪失リスクを警戒している。

### (4) 日本企業関連ニュース

- **日本企業 JTEKT、アレクサンドリア工場の閉鎖を加速、資本金を99.9%削減へ**

- 4月以降、テレオルマン県最大の雇用主である JTEKT ベアリングス・ルーマニアは工場閉鎖を進め、820人以上の従業員を段階的に解雇する方針を決定した。2024年の純損失は1億2,320万レイに達し、資本金は1億5,940万レイから9万レイへと縮小予定。日本の親会社 JTEKT はヨーロッパでの生産拠点削減を進めており、2027年までに欧州子会社を28社から18社に減らす計画。

### (5) その他トピックス

- **中央銀行総裁、OECD加盟後のユーロ導入を次の国家目標と位置づける**

- 4月2日、ルーマニア中央銀行のイサレスク総裁は講演で、OECD加盟が国家プロジェクトの中心であり、その後にユーロ導入が続くべき戦略目標である旨述べた。ユーロ加盟の名目基準は持続可能な方法で達成する必要があるとし、財政赤字の大幅削減と地域間格差の是正が前提条件だと強調した。

- **政府、ウラン鉱山保全活動の継続を確保する緊急措置を承認**

- 4月2日、政府はウラン鉱山の保全段階における活動の継続を確保するための緊急措置を盛り込んだ覚書を承認した。対象はカラシュ・セヴェリン県とビホール県の複数の鉱山施設で、関係機関が連携して安全確保と環境保護を優先しながら引き継ぎを行う。

- **ルーマニア、ファイザーとのコロナワクチン訴訟で第一審敗訴、約6億ユーロの支払い命令**

- 4月2日、ルーマニアがブリュッセルでのファイザー訴訟の第一審で敗訴し、受け取らなかった新型コロナワクチン代金として約6億ユーロの支払いを命じられた。ロゴベテ保健相は控訴の有無にかかわらず支払いは不可避だが保健省の予算には計上されていないと述べ、財務省との協議を予定していると明かした。

- **ルーマニア、モルドバのジュルジュレシュティ港を取得**

- 4月22日、シエルバン運輸相はルーマニア国営コンスタンツァ港がモルドバのジュルジュレシュティ港の運営を買収したと発表した。ウクライナの将来的な復興需要や市場競争力を踏まえた戦略的投資であり、今後大規模な能力増強投資を予定している。

## 外政

- **コツォフェネシュティのダキア人兜と腕輪 2 点、オランダで盗難から 1 年以上を経て回収**

- 4月3日、2025年1月にオランダで盗まれたコツォフェネシュティの黄金の兜と腕輪 2 点が回収され、オランダ当局がアッセンで記者会見を開いた。拘束されたオランダ人容疑者 3 人の弁護士が減刑と引き換えに遺物を当局に返還した。残る腕輪 1 点の搜索はルーマニア検察が継続中と発表した。

- **ツオイウ外相、ルビオ米国務長官と安全保障および二国間協力について電話協議**

- 4月9日、ツオイウ外相はルビオ米国務長官と電話会談を行い、安全保障、経済発展、高レベル会議に向けた共通優先事項を議論した。防衛、エネルギー、重要鉱物分野での協力拡大についても意見を交わし、ルーマニアの中東における米軍作戦支援への貢献が米側から高く評価された。

- **ツオイウ外相、ブリュッセルでメツォラ欧州議会議長と会談**

- 4月21日、ツオイウ外相はブリュッセルでメツォラ欧州議会議長と会談し、EU 多年度予算におけるルーマニアの優先事項、単一市場の競争力強化、中東紛争とホルムズ海峡封鎖の影響について議論した。ルーマニアが欧州の物流回廊管理で培った経験が地域の強みとして紹介され、ヨーロッパデーのブカレスト訪問についても話し合われた。
  - ◇ 5月6日、ダン大統領は、大統領府で開催予定だったヨーロッパデー・レセプションの開催中止を発表、メツォラ欧州議会議長のルーマニア訪問は延期。

- **ケレメン UDMR 党首、マジャル・ハンガリー次期首相とブダペストで会談**

- 4月22日、マジャル・ハンガリー次期首相はブダペストを訪問中のケレメン UDMR 党首と会談し、UDMR が今後ハンガリー国内政治に介入しないことで合意した。トランシルバニアのハンガリー系住民への支援継続は確認されたが、マジャル次期首相は資金用途の透明性を求め、過去 10 年分の補助金の遡及調査も示唆した。

- **ダン大統領、欧州理事会で EU 予算の野心的な規模とウクライナ支援を訴える**

- 4月23～24日、ダン大統領はキプロスで開催された欧州理事会に参加し、野心的な EU 予算と公正な資金配分を求めた。ウクライナへの 900 億ユーロの支援の実行とロシアに対する第 20 次制裁パッケージの発動についても議論された。

- **ダン大統領、三海域イニシアティブ首脳会合でルーマニアの地域協力強化を発表**

- 4月28日、ダン大統領はクロアチアで開催された三海域イニシアティブ首脳会合に参加し、コンスタンツァ港とリエカ港（クロアチア）当局間の覚書署名及び三海域インフラ基金への加盟を発表した。

# 防衛・安全保障

## (1) 事案・イベント等

### 【無人機飛来】

#### ● 4月7日

- ロシア軍は、ルーマニアのトゥルチャ県北部と国境を接するウクライナ領内の民間施設およびインフラ施設に対し、新たな無人機攻撃を実施した。
- 00時58分、トゥルチャ県北部の住民に対して RO アラート（ルーマニア版 J アラート）が発出された。ルーマニアの防空システムは、国境付近を移動した2つの航空目標物を監視した。これらはルーマニアを領空侵犯せず、RO アラートは01時46分に解除された。

#### ● 4月8日 17機の目標物

- ロシア軍は、ルーマニアのトゥルチャ県北部と国境を接するウクライナ領内の民間施設およびインフラ施設を無人機で攻撃した。
- 03時44分、トゥルチャ県北部の住民へ RO アラートが発出された。第86空軍基地から NATO 領空警備任務に就く F-16 戦闘機2機が離陸し、対空防衛システムが発射態勢に移行した。
- ルーマニアのレーダーシステムは国境付近を移動した17機の航空目標物を監視したが、領空侵犯は確認されず、05時10分にアラートは解除された。

#### ● 4月14日

- ロシア軍は、ルーマニアのトゥルチャ県に近いウクライナ領内の民間施設およびインフラ施設に対する無人機攻撃を再開した。
- ヴァルコヴェ北方の無人機群がレーダーで検知されたことを受け、03時48分にトゥルチャ県北部住民へ RO アラートが発出された。第86空軍基地から F-16 戦闘機2機が離陸し、防空システムが発射態勢に移行したが、領空侵犯は確認されず、04時45分にアラートは解除された。

#### ● 4月15日

- ロシア軍は、ルーマニアのトゥルチャ県に近いウクライナ領内の民間施設やインフラ施設を繰り返し攻撃した。
- ヴァルコヴェ付近の無人機群が検知されたことを受け、02時37分に RO アラートが発出された。第86空軍基地から F-16 戦闘機2機が離陸し、防空システムが発射態勢に移行した。
- その後、別の無人機群がイズマイル方面へ移動しているのがレーダーで確認され、05時08分に新たなアラートが発出されたが、領空侵犯は確認されず、05時42分に解除された。

#### ● 4月16日から17日 領空侵犯

- ロシア軍は、ルーマニア国境に近いウクライナのキリア付近の民間施設およびインフラ施設に対し、新たな一連の無人機攻撃を実施した。
- 防空システムのレーダーが2つの航空目標を捕捉し、17日00時43分に RO アラートが発出された。そのうち1機がルーマニアを領空侵犯し、キリア・ヴェケ南東16kmの無人地域上空でレーダーロストした。02時48分にアラートは解除され、国防省の調査チームが現場に派遣された。

#### ● 4月25日から26日 ガラツィの民家に墜落、ロシア大使を外務省に召喚

- ロシア軍の無人機攻撃により、ルーマニアのガラツィ市等に無人機が墜落する事案が発生した。
- 25日02時00分、第86空軍基地から英国空軍のユーロファイター戦闘機2機が離陸し、02時14分に RO アラートが発出された。ガラツィ市居住地域に爆発物を搭載した無人機が墜落し、民家の別棟と電柱が被害を受けた。専門チームにより無人機破片が回収され、制御された爆破処理が行われた。
- さらに翌26日にはヴァカレニおよびルンカヴィツァでも無人機の破片や爆発物が発見され、同様に処理された。
- 外務省は領空侵犯を強く非難し、25日に在ルーマニア・ロシア大使を召喚して抗議した。

## 【人道支援等】

### ● レバノンへの人道支援

- 4月15日、ルーマニア空軍のC-130輸送機とC-27J輸送機は、人道危機に直面しているレバノンの民間人への支援物資を積載して第90空軍輸送基地（ブカレスト）から離陸し、国家備蓄の食料やテントなど計15トンが輸送された。
- この支援は、欧州市民保護メカニズムを通じた要請に基づき実施された。

### ● ルーマニア空軍による人道支援任務

- 4月24日、ルーマニア空軍のC-27Jスパルタン（医療任務機）が、火傷患者2名の第90空軍輸送基地（ブカレスト）からベルギーのシャルルロワへの輸送任務を実施した。

## 【その他】

### ● ロシアのハッカーによるルーマニア空軍等へのサイバー攻撃

- 4月15日の報道によれば、ロシア軍情報機関関連のハッカー集団APT28が、ルーマニア空軍の電子メールアカウント数十件をハッキングした。
- 攻撃はフィッシングを利用したもので、空軍将校62名や空軍士官学校関係者5名のアカウントが標的となった。ウクライナ支援強化に関する情報収集が目的とみられ、国家機密ネットワークへの侵入は阻止された。
- 他国の機関（ギリシャ国防省など）も被害を受けており、ルーマニア当局は警戒レベル引き上げとパートナー諸国との連携を強化している。

### ● 練習帆船「ミルチャ」大西洋横断航海出発

- 4月16日、ルーマニア海軍の練習帆船「ミルチャ」は、コンスタンツァ軍港から5か月間の国際訓練航海に出航した。
- 乗組員188名（留学生19名を含む）を乗せ、米国独立250周年式典への参加を含む海上訓練や公式行事を予定している。
- 同船は150日以上かけて15港に寄港し、「（帆船の特徴から）持続可能なルーマニア大使」としての役割を果たして9月に帰港する予定である。

## (2) 訓練・演習等

### ● 多国籍演習「シー・シールド2026」が終了

- 4月3日、ルーマニア軍が主催した今年度最大規模の多国籍演習SEA SHIELD2026が全日程を終了した。3月23日にコンスタンツァ港での開会式で始まった本演習には、ルーマニアおよび12の同盟・パートナー国から約2500名の軍人が参加し、黒海およびドナウ川デルタで実戦的な訓練が展開された。
- 演習では艦艇48隻、戦闘車両64両、航空機10機、および10基の無人システムが投入され、対潜・対水上戦に加え、ハイブリッド脅威やエネルギーインフラ保護を想定した高度なシナリオが実施された。4月2日には「主要賓客の日（DV Day）」が設けられ、NATO高官や各国代表が多国籍軍の高度な相互運用性を視察した。
- ヴラッド参謀総長は、本演習の完遂がNATO東部側面における抑止力の要であることを強調した。全ての作戦シーケンスは海軍構成部隊司令部の指揮下で円滑に遂行され、参加国間の協力関係が改めて強固なものとなった。
- また、今回の演習はロシアの「影の船団」による活動や、黒海における不規則な海軍紛争への即応能力を高める重要な機会となったとされる。

### ● 動員演習MOBEX AB-HD-26

- 4月6日、国防省は、5月11日から15日にかけてアルバ県（AB）およびフネドアラ県（HD）において動員演習「MOBEX AB-HD-26」を実施すると発表した。
- 演習は予備役と現役兵の結束強化等を目的とし、対象地域の予備役兵が召集され訓練に参加する。また、関連機関による地方行政当局等の評価活動も実施される。

- 今年度中にはさらに 2 回の同種演習が予定されており、地域の安全保障情勢とは無関係の定期活動であると強調されている。
- **無人機脅威対抗演習 Eastern Phoenix 2026**
  - 4 月 14 日から 24 日にかけて、国防省と NATO は、カプ・メディア射撃場において演習「Eastern Phoenix 2026」を実施した。
  - ルーマニアおよび NATO 加盟国等から約 500 名が参加し、無人航空機システム（UAS/C-UAS）による脅威に対抗するための能力の革新と実証を目的とした。
  - 本演習は、防衛産業との連携による関連技術の試験・統合に向けた継続的な取り組みの一環である。
  - なお報道によれば、イスラエル製の対ドローン技術「Sentrycs」などもテストされたとされる。
  - 4 月 24 日には、無人航空機の探知・追跡・交戦プロセスの実演や、付随的被害の最小化に重点を置いた精密作戦のデモンストレーションが行われ、報道によれば、迎撃テストは一部成功し、ミルツァ国防相はレーダーの精度等を高く評価したとされる。
  - また 4 月 26 日、ミルツァ国防相は、参加した企業に対し、実任務への参加を要請した。演習で優れた性能を示した国内外の防衛産業企業の一部に対し、ルーマニア軍とともに行う実際の任務への参加招待状が送付される予定。
  - この取り組みは、最新の対無人機技術を迅速に実践投入するための施策の一環である。なお報道によれば、検証された技術が直ちに現場の防衛力強化に活用される方針とされる。
- **EAGLE SPEARHEAD 演習 要人視察**
  - 4 月 24 日、フランス主導のルーマニア駐留 NATO 戦闘群は、チンク演習場において「EAGLE SPEARHEAD」演習の要人視察を実施した。
  - 同盟国 9 か国から約 800 名の兵士が参加し、ルクレール戦車や無人機部隊、歩兵・砲兵・工兵の機動など多様な能力を統合した複雑な訓練シナリオが実施された。
  - 本演習の目的は、共同訓練の実施ならびに参加部隊の即応態勢と対応能力の評価にある。
- **NATO サイバー防衛演習 Locked Shields 2026**
  - 4 月 13 日から 24 日にかけて、ルーマニアの専門家チームは、ブカレスト工科大学等において国際サイバー防衛演習「Locked Shields 2026」に参加した。
  - CCDCOE が主催する本演習には約 4,000 名が参加。ルーマニアはウクライナおよびモルドバ共和国と合同チームを組み、約 8,000 件のサイバー攻撃からのインフラ防御を模擬した。
  - 本参加は、国家サイバー防衛能力の構築および国際パートナーとの協力強化への取り組みを示すものである。

### (3) 主要な会談・会合等

- **BMMC（バルカン軍事医学委員会）総会**
  - 3 月 30 日から 4 月 2 日にかけて、国防省医療局は、ティミショアラにおいて第 27 回バルカン軍事医学委員会（BMMC）総会を開催した。
  - バルカン地域 6 か国の軍事医学専門家が集まり、「軍事医療における新たな課題」をテーマに学術的対話が行われ、軍医・医療活動の認知度向上に寄与した。
  - 次回の第 28 回大会（2027 年）はセルビアが議長国として主催することが決定した。
- **国防相、ウイコフ提督と会談**
  - 4 月 2 日、ミルツァ国防相およびヴラッド参謀総長は、国防省本部においてナポリの連合軍統合司令部司令官ウイコフ提督と会談した。
  - 黒海地域における同盟の防衛態勢の強化、東部戦線における NATO の警戒活動へのルーマニアの貢献、軍事機動性、EU との協力強化などについて協議された。
  - ウイコフ提督は、イラク任務におけるルーマニア兵の貢献や NATO 集団防衛に向けた取り組みを高く評価した。

## ● 国防相、米国代表団と会談

- 4月7日、ミルツァ国防相は米国 Aero Precision Association の代表団と会談した。
- ルーマニア国内での生産開発やノウハウ移転、国内防衛産業のグローバルサプライチェーンへの統合など、共同プロジェクトの立ち上げの可能性について協議された。
- 同相は、防衛予算の大幅増額を背景に、軍隊の能力近代化に向けた米国企業との協力の重要性を強調した。

## ● 国防相、ボスニア・ヘルツェゴビナ実務訪問

- 4月10日、ミルツァ国防相とヴラッド参謀総長は、EUFOR アルテア作戦に関連し、ボスニア・ヘルツェゴビナのサラエボへ実務訪問を行った。
- EUFOR 司令官との会談では、西バルカン地域の安定維持の重要性が強調され、キャンプ・プトミルに展開中のルーマニア兵士らとも面会して任務遂行の実態を把握した。  
2026年5月よりルーマニアが EUFOR アルテアの参謀長職を引き継ぐことが確認された。

## ● ホルムズ海峡の安全保障に関する多国籍計画策定会議

- 4月22日から23日にかけて、ルーマニア国防省の将校2名は、ロンドンで開催された「ホルムズ海峡の安全保障に関する多国籍計画策定会議」に参加した。
- 英仏主導の航行の自由確保に向けた任務について、ルーマニアは直接的な戦闘介入ではなく、停戦合意後の実施を前提とした貢献策を提示した。
- 海軍作戦立案将校、大深度潜水員、機雷掃海要員などの高度な人員・装備の派遣が提案された。

## ● 国防相、ポーランド軍参謀総長と会談

- 4月22日、ミルツァ国防相とヴラッド参謀総長は、国防省本部においてルーマニアを公式訪問中のポーランド軍参謀総長クラ大将と会談した。地域における安全保障情勢、NATOにおける両国の協力強化策、特に東部国境における抑止力と防衛態勢の強化に関する議題が話し合われた。
- 両国間の強固な戦略的パートナーシップが高く評価され、クライオヴァでの共同訓練等も予定されている。

## ● 国防相、米国陸軍長官と会談

- 4月27日、ミルツァ国防相は、国防省本部においてドリスコル米陸軍長官が率いる米国代表団の表敬訪問を受けた。無人航空機（UAS）および対抗システム（C-UAS）分野における協力に関する意向書が署名され、ルーマニアは「Counter-UAS Marketplace」へのアクセス権を獲得した。
- また、同長官はヴラッド参謀総長とも会談し、東部戦線の強化に向けた二国間プロジェクトの発展や実践的な対話の深化で合意した。

## (4) 部隊・人員・装備品・防衛産業など

### ● Project Eagle の AI ドローン迎撃システム「Merops」の導入

- 報道によれば、4月24日、カプ・メディア演習場において、元 Google CEO のエリック・シュミット氏が関与する企業 Project Eagle が開発した AI 搭載の無人機迎撃システム「Merops」の最終テストが行われた。
- これは「Eastern Phoenix 2026」演習の一環として実施され、同システムはドナウ川沿いのロシアによる無人機脅威に対抗する手段として実証された。ミルツァ国防相はテストの成果を一部成功と評価した。
- このシステムは数日以内にルーマニアで実運用に移行する予定である。

### ● BlueSpace Technology 社が C-UAS システムを披露

- 同じく報道によれば、4月24日、ルーマニアの企業 BlueSpace Technology 社は、「Eastern Phoenix 2026」において同社の統合 C-UAS システム OKYA 5601 を披露した。
- このシステムは無人機の脅威を感知し、非運動的な手段で無効化する機能を備え、NATO の複雑なアーキテクチャに統合できるように設計されている。
- 同社を含む国内外の防衛産業企業が、最新の対無人機技術をこの機に実証した。

## ● SAFE プロジェクト、議会で事前承認

- 4月28日、ルーマニア議会の国防・公共秩序・国家安全保障合同委員会は、「欧州の安全保障のための行動（SAFE）」を通じた資金調達のために国防省が提案した15件のプロジェクトの条件を承認した。
- これにより、ルーマニア国防省は提案されたプロジェクトの授与手続きを開始することができる。
- 15件のプロジェクトは次の通り。①装甲兵員輸送車 PiranhaV 139両、②装輪多目的輸送プラットフォーム（トラック等）1115両、③防空・ミサイル防衛統合指揮所（SBAMD-TC）2システム、④ダイバー用介入艇2隻（マンガリア造船所での建造）、⑤沿岸哨戒艦（OPV）2隻（マンガリア造船所での建造）、⑥H225M 多用途ヘリコプター12機（フランスとの共同調達）、⑦Naval Strike Missile（NSM）艦対艦ミサイル7システム（ノルウェーとの共同調達）、⑧装軌式歩兵戦闘車（MLI）232両、⑨SKYNEX 短距離防空システム（対ドローン機能搭載）7システム、⑩Skyranger 35mm 自走式短距離防空システム（対ドローン機能搭載）2システム、⑪中距離レーダー探知システム12システム、⑫中距離地对空ミサイルシステム（SBAMD-MR）：3システム（ドイツとの共同調達）、⑬徘徊型兵器（自爆型等ドローン）70システム（ポーランドとの共同調達）、⑭艦載用近接防空システム（CIWS Millennium）2システム、⑮35mm 弾薬（AHEAD 弾含む）

## 我が国との関係

### (1) 二国間関係全般

#### ● 片江大使とパウリウク上院国防・治安・国家安全保障委員長との面会

- 4月15日、片江大使はパウリウク上院国防・治安・国家安全保障委員長と会談し、安全保障課題への対応について議論した。双方は将来のウクライナ復興を見据えた連携や投資促進を通じ、日本とルーマニアの戦略的パートナーシップ、及びインド太平洋と欧州のパートナーシップを一層深化させていくこと、この強固な関係を支える議会外交の活性化も共に推進していくことで一致した。



### (2) 広報・文化関係、大使館主催事業等

#### ● 花見 2026 の開催

- 4月18日、在ルーマニア日本国大使館は、遅咲きの八重桜などが彩るミハイ一世公園（ヘラストラウ公園）内の日本庭園で、ブカレスト市と共催で「花見」を開催した。
- 開会式では、片江大使、チウク・ブカレスト市長が挨拶を行い、パウリウク上院議員、ツォイウ外相、デメテル文化相からも祝辞を得た。
- ステージでは、ルーマニア人愛好家による空手、和太鼓、合気道の迫力ある日本文化パフォーマンスや、生け花のデモンストラーションが披露された。
- 庭園内では、同愛好家の協力により、茶道、浴衣の着付け、折り紙、書道、弓道、剣道、日本酒、囲碁、墨絵など、様々な日本の伝統文化が披露された。

